

氏 名：小澤 千恵

学位の種類：博士（看護学）

学位記番号：甲第 204 号

学位授与年月日：2021 年 3 月 10 日

学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当

論文審査委員：主査 蛭田 明子（聖路加国際大学准教授）

副査 片岡 弥恵子（聖路加国際大学教授）

副査 奥 裕美（聖路加国際大学教授）

副査 池田 光子（埼玉医科大学総合医療センター看護部長）

論文題目：アドバンス助産師を対象とした産後の母親への心理支援の質向上プログラムの導入と評価

#### 博士論文審査結果

県内随一の周産期医療センターとして、A 病院では助産師外来で心理支援に力を入れている。しかし、心理支援について専門的に学んでいない助産師も、役割上心理支援を実施せざるを得ない状況があり、提供している支援の組織全体の質の改善・底上げが必要だと考え、実装を行った。

実装戦略は、心理支援の方法を e-learning で学ぶ基礎知識の修得と、ケースカンファレンスを中心に実践での知識の活用を検討する実践力強化の 2 段階であった。実装のアウトカムとして、対象の条件に合致するアドバンス助産師 13 名が全員プロジェクトに参加し、全員が e-learning の確認テストに合格するなど参加者への浸透度は高かった。e-learning、ケースカンファレンス共に QI を重ねるほどに適切性、有用性が上昇した。一方で、e-learning の視聴やケースレポートの作成には時間がかかり、勤務外での対応となり、カンファレンスへの参加は全員参加が難しいなど、実行可能性については課題が残った。組織的アウトカムでは、共感能力の他者評価において、プロジェクト終了後には全員が対象の感情にも注目し、共感的に応答できるレベルに到達した。

審査における主要な指摘事項は以下である。①実装戦略における実践力強化の具体的方法・内容に関して、QI サイクルの中でどのような問題点があがり、どのように改善されていったのか、その記述が不十分であること。②組織的アウトカムの記述が明瞭でないこと。③対象が少ないことを加味して平均で結果を解釈するのではなく、個々の変化を踏まえて結果を解釈してみること。④考察全体の不足。④プロジェクトは自己啓発か労務管理か、その位置づけを踏まえて今後の課題を記述すること。

メンタルヘルスに問題を抱える女性が増加している中で、助産師が心理支援の方法を学び、スキルを身につけることは極めて重要であり、そのための方法を実装により示した本研究の意義は大きい。ことに、「支援」の枠組みを情報提供ではない、対象の感情への「共感」により、対象が自ら問題の所在に気づくことが支援のゴールであることを助産師たちが理解し、実践を変えていくプロセスの記述は、心理支援にこれから取り組む助産師の道標となり、実践の改善に大きく貢献すると考えられる。

以上により、本論文は本学学位規定第5条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。